日本の学童ほい・く 普及拡大ニュース
全国学童保育連絡協議会
みんなで読もう！ 目標 3万4000部
2023年10月17日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

元気が出るみんなの取り組みをご紹介

楽しく普及拡大

指導員から保護者へ、ほいく誌購読の輪を広げよう！

子どもの気持ちに気付かされる、学童保育の話が満載です！

埼玉県 熊谷市 の 取り組み

全世帯購読に

ほいく誌の部数が減っているということで、購読数を増やす取り組みを県の連絡協議会、指導員連協で行いました。そこで、「よし！　うちの学童でも！」と保護者会で全世帯購読を提案しました。提案の際に「ほいく誌を保護者におすすめするときにどう説明したらよいかわからない」という新人指導員の声があったので、連協で作った文章を活用させてもらい、全国連協の役割やほいく誌の購読料がどんなふうに使われているかをわかりやすく伝えることができ、快く提案を受け入れてもらえました。

読んでもらいたい

全世帯購読になり、毎月配っているけれど、読んでもらっているのだろうか？

地域の学童保育では、保護者会のとき、ページを決めて読み合わせをしていると聞き、うちでも何かやってみようかと考えました。まずは、いいなと思った記事や保護者のタイムリーな悩みに共感できそうな記事を紹介する文章をつけてみることにしました。忙しい時間の合間に拾い読みでもしてもらえればと、パラっとめくったときにページが開けるよう帯にして、ほいく誌を開く機会にできればいいなと思います。

ほいく誌を楽しみにしてもらうにはどうしたらよいのだろう？

読んだ時に誌面に知っている指導員さんや保護者の名前を見つけると、なんだかうれしくなるなということから、投稿の機会を増やすべくモニター制度を活用してみようとモニターになってくれる保護者の係を設置してみました。自由投稿なのでなかなか動きはないのですが、認知してもらい、定着し、届くのが楽しみになれば良いなと思います。

始めたばかりで「なればいいな」ばかりですが、せっかく全世帯購読になったので、あとは、みんなで中身について話せる場所をつくれればいいなと計画中です。

日本の学童ほいく9月号

特集　学童保育の生活と安全を考える

今回の特集では、「子どもが学童保育で過ごす際の日常の安全」について、指導員・保護者が知っておきたいことを学びあい、学童保育での子どもの安全を考えるうえで基本的なことをたしかめあいます。また、「避難訓練や防災訓練」の実際の取り組み、「安全計画の策定」についても学びます。

全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほい・く 普及拡大ニュース

みんなで読もう目標 3万4000部

2023年10月17日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

神奈川県横須賀市●保護者から

2023年7月号の特集「働きながらの子育て――学童保育と共に」は、いつも以上に共感することが多く、興味深く拝読させていただきました。

わが家は、学童保育に通っている小学3年生の長女のほかに、幼稚園年長の長男もいます。毎日、幼稚園と学童保育にお迎えに行き、帰宅後はあわただしく夕食とお風呂を済ませます。

子どものためを思って早めの就寝を心がけているはずなのに、気がつけば「○時までに寝かせなきゃ」とあせり、「早く○○やりなさい！」と怒ることもしばしばです。そんな日は、「大好きだよ」の気持ちを伝えるべく、寝る前にギュッと抱きしめる儀式をしています。ちょっとしたことですが、これが意外と親子共に気持ちのリセットになっているように感じます。

子どもが就学前からつづけている習慣ですが、まだまだつづけていこうと思います。

『日本の学童ほいく』2023年9月号「読者のひろば」より

岡山県岡山市●指導員から

新しい1年生が学童保育の生活に少しずつ慣れてきはじめ、お天気のいい日には運動場のあちこちで泥だんごをつくる子どもの輪ができています。

「光るジャガイモ」をめざす子、「光る恐竜の卵」をつくりたいという子、途中で落としちゃって涙する子、うまくできなくてやけくそになる子……。

さまざまな子どもの姿があります。

2023年4月号の特集「春☆仲間を迎える学童保育」に代田盛一郎先生が書かれた「ようこそ学童保育へ！　泥だんごのようなピカピカの子ども時代を」という文章を読んで、「たしかに子どもの育ちって泥だんごをつくるみたいだな」と、納得しました。

傷が入ったり、磨いたり、どうしたらもっと光るんだろうと悩んだり。

ピカピカの子ども時代をとおして、ピカピカの大人になるまで、いろいろな経験を一緒に積みあげていきたいと思います。

『日本の学童ほいく』2023年9月号「読者のひろば」より

私と「ほ・い・く・誌」

読者リレー執筆・今月は福井県福井市から指導員の南 惠美子さん

最近、若手の指導員が『日本の学童ほいく』を活用しながら勉強会をしていることを知り、とても懐かしく思いました。私も勤務したての頃、「『日本の学童ほいく』の○月号持って来て」と、ミーティング時に言われ、事例や内容にそってミーティングを行なっていたのを思い出し、時代はつながっていくものだなと懐かしくもうれしくも思いました。

当時、私が毎月楽しみにしていたのは、「岸本さんのカメラでこんにちは」というコーナーでした。日本全国の学童保育施設の紹介や運営状態を知ることができ、なかでも元気な子どもたちの様子をいろいろと拝見できるのが何よりの楽しみでした。

勤務して12年目の頃私の勤める学童保育にまさかの取材があり、子どもたちの下校時の様子から、保護者のお迎えまでの1日取材。その日は、おやつの準備を子どもたちとしていて、私のふるさとの郷土料理「きりたんぽ」を子どもたちと一緒につくっていました。現在では、手づくりおやつを出すのがむずかしくなっており、とても懐かしい思い出です。

その後、「わたしは指導員」「おすすめしますこの絵本」のコーナーの執筆もさせていただくことになり、ほいく誌と共に指導員として歩んでゆくことになりました。ほいく誌は私の歴史でもあります。皆さんも、もっともっと活用していただけたらと思います。

編集・発行 全国学童保育連絡協議会 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 本郷宮田ビル4階 TEL●03-3813-0477 FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou